

## 親子で考え収量増、省力型施設に大改造！

後継者がいなくて悩まれている方が多い中で今号は成功されている事例を紹介させていただきます。びわ湖の東岸滋賀県野洲郡中主町にある南出農園(代表南出喜代次)さんはH1年(1989)先代の敏幸さんが200坪で水耕みつば生産を開始されましたが、区画整理の都合で現在地にH10年(1998)、約800坪のハウス建設され喜代次さんが自ら代表となりサラリーマン生活から専業農家への転進をされました。もともと機械いじりは好きだったとかで、新しい機械があると見に出かけたり、自分でも色々工夫したりと「よりいい物を目指して」の毎日でした。出荷先は京都市場がほとんどですが、料理店などの業務筋が多

いせいか品質についての要求が厳しいところですが、こちらは下葉取は総て手作業で実施などのこだわり品質が評価され、それなりの値建てが得られるなど軌道に乗りはじめたそうです。

そんな中で2年前息子さんの卓哉さんが、手伝うようになり、農薬規制などの状況変化も相まって、どうしたらの議論に一層拍車がかかった毎日になり、二人で、あそこは、こうした方が、これは問題やで、と、議論を積み重ねたそうです。固定のえむベッドだったので、通路スペースの空きが無駄に映ったし、苗場もキッチンしなければ、定植機はあったけれど、もっと機械化を考えたらと検討が続き、本年に大改造を決断されたもので

す。改造の方針は、ハウス環境整備、栽培株数拡大、省力化の3点に絞られ、防虫ネット装備、苗場環境制御、14列のベッドを18列にと全面ベッド方式へ置換、播種機・中間移植機導入・・・などなど大改造となりましたが、綿密に検討されたものでした。費用はかかったけれど収量は50%近く増えたとし、ハウス環境・苗場環境の整備で、農薬もほとんど使用しないで栽培ができていますと成果に喜んでおられます。これも親子共同作業での緻密な検討の賜物だと感心させられました。また地元スーパー平和堂への直販も進められるなど販売面でも前向きな取組をされており、今後益々のご発展をお祈りしております。(担当 武田基詩)

